

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立所沢商業高等学校)

目指す学校像	資格を活かし、未来を拓く商業高校
重点目標	1 希望する進路実現 (進路指導) 2 基礎学力及び資格取得の向上 (学習指導) 3 基本的生活習慣の確立と生徒が活躍できる場の確保 (生徒指導) 4 地域に信頼される学校づくりの推進 (開かれた学校)

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局 (教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月1日現在)		
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	入学から卒業までの「3年間の進路プログラム」に基づいた系統的な指導の結果、就職・進学の実現率は100%を誇る。さらに企業や大学等進路先の開拓、また、多様化する生徒の職業観・勤労観を育成するためキャリア教育を推進する必要がある。	生徒ひとり一人に対するきめ細かな指導により、100%進路実現を目指す。	①進路ガイダンスをはじめ、適性検査、SPI検査、一般常識テスト等のキャリア教育を進め、自己の特性を自覚させ、第一希望の進路実現を図る。 ②生徒一人ひとりに対して、保護者も含め、きめ細かな進路相談を実施する。 ③新たな企業訪問や大学説明会等の参加を積極的に行う。	①進路実現率100%達成できたか。また第1希望が実現できたか。 ②各種進路行事が80%以上の生徒にとって、高校生活の充実と進路実現に有効となっているかどうか。 ③企業訪問を70社以上行い、新たな求人開拓ができたか。	全職員が組織的に関わり、ひとり一人に対するきめ細かな「3年間の進路プログラム」により、就職・進学の実現率100%を達成した。 ①就職の第一希望定率約90%、進学100%、第2希望では100%を達成した。ミスマッチがないように懇切丁寧な指導を行った。 ②各種進路ガイダンス実施後の生徒アンケートによると90%以上が「役立った」と回答しており大きな成果があった。 ③年間を通じ80社以上の企業訪問や、大学等の学校説明会に参加し、進路選択の際、生徒に有効な情報提供ができた。求人数もさらに増加し、生徒の企業選択肢を増やすことができた。	【課題】 進路実現率100%を目指し、基本的生活習慣、基礎学力、自己管理能力、自己肯定感を身に付け、日々の教育活動において自己の成長を実感させる取組が必要である。 【改善策】 ①「3年間の進路プログラム」の内容、効果などを意識して取り組む。また生徒の進路実態に応じ随時対応するために指導体制を強化する。 ②上級学校進学や看護系、公務員希望者の増加に対応するために指導体制を強化する。 ③就職や進学した卒業生を追跡調査し、その活躍データを現役生のキャリア教育に活かす。	【意見・要望】 ①資格取得のためだけでなく将来に生きる学力が必要②様々なガイダンスで生徒の適性に合致した指導③様々な指導の中で生徒の自己発見を促進④専門高校としての特色を広報⑤進路決定に有効な資格取得により多様な進路希望への対応⑥進路相談と進路ガイダンスがよく機能している⑦多数の人との雑談による会話力の向上 【評価】 ①資格取得が生徒の学習意欲につながり、生徒の健全な成長に有効である。②進路決定率100%は素晴らしい実績で多様な進路希望に柔軟に対応できている。③生徒の特性や適性、能力を進路相談等で的確に把握し、適切な指導がなされている。④資格が将来どのように生きるかを実感できる機会が必要である。
2	朝学習や補習、商業特訓などにより、基礎学力の向上や高度な資格取得を目指し、組織的に取り組んでいる。結果、検定1級取得者が増加してきているが、さらに自学自習が行えるように授業の質的な向上に取り組む必要がある。	学力向上及び高度な資格取得を推進するために、基礎的・基本的な学力を身に付ける。	①基礎力診断テスト(2回)や各種検定の模擬試験等を通じて、自己の実力を把握させ、学力向上の意識を高める。 ②上位級の資格取得を目指し、学校生活に目標を持たせる。 ③知的好奇心を刺激する利用案内を作成し図書館による自学自習の習慣付けを進める。 ④「授業研究週間」や「未来を拓く学びプロジェクト」の活用により、授業改善を進める。	①基礎力診断テスト結果及び各種検定の模擬試験等により、学力が向上したか。 ②上位級の合格率が上がったか。 ③図書館を利用した生徒が増えたか。 ④教員相見による授業研修回数が増えたか。ICTの活用等、工夫した授業の実施回数が増えたか。	毎日の朝学習、普段の授業取組状況、放課後の補習等により、生徒の基礎学力は確実に向上している。検定上位級の取得も例年以上である。 ①基礎学力診断テストから潜在的な能力を有する生徒が多数存在することが判明した。 ②簿記の総合1級や全商三種1級取得者が例年より倍増、六種1級取得者が出るなど、商業科を中心とする組織的な対応に大きな成果が出た。 ③図書館利用が広報誌の発行やネットワークの活用等により、授業利用が3倍に向上した。 ④ICTやアクティブラーニングを活用した授業の増加、地元早稲田大学と連携した授業を実施し、授業改善が一段と進んだ。	【課題】 能力を有する生徒を授業や補習等でのように引き上げ、基礎学力の向上及び高度な資格取得に結びつけるのが大きな課題である。 【改善策】 ①ICTやアクティブラーニング等による効果的な指導方法を研究し、生徒の学習意欲の向上に繋げる。 ②全教科の横の繋がりを密にし、授業内容を精査する。商業高校生として改めて資格取得の重要性を認識させる事業を実施する。 ③図書館の有効利用、県事業「未来を拓く学びプロジェクト」や外部の教育諸機関と連携し、自学自習ができる生徒を育成する。	【意見・要望】 ①アクティブラーニング等の学習指導方法を取り入れた授業が必要②生徒の主体的な学びを取り入れた学習指導③自習機の設置や図書館活用等による生徒の学びの意識改革④授業で作成した優れたHP等を文化祭で展示発表⑤基礎基本となる学力を身に付けることの大切さを認識⑥体験的に学んだことを重視 【評価】 ①全国英語スピーチコンテスト大会ファイナリストや資格検定六種目1級合格者等がでていることから、一人ひとりの生徒の能力や適性等に応じた指導ができています②地域と連携した教育活動を行い、生徒の深い学びと授業改善ができています。③図書館の活用や授業研究週間の活用、自習機の設置は生徒の学力向上が期待できる。
3	8年連続の遅刻数減少などをはじめ、全教職員による生徒指導により、生徒の基本的生活習慣が確立されているが、さらに交通マナーなどの社会規範意識を醸成する必要がある。そして生徒一人ひとりが活躍できる場として、部活動の活性化と学校行事を充実させる必要がある。	社会人として必要なマナーやルールを身に付け、自主・自律的な行動ができる生徒を育成する。	①全職員による登下校・校内巡回・整容等きめ細かな指導及び生徒による挨拶運動・駐輪指導等の実施。 ②毎月の朝礼の講話、外部講師の活用、HRでの充実した道徳教育の実施。 ③文化祭をはじめ、生徒会による自主的積極的な学校行事の運営。 ④「チーム所商プロジェクト」を通じて、部活動を活性化させる。	①年間遅刻数が昨年度より減少し、出席率は向上したか。 ②生徒アンケートにより規範意識の向上は見られたか。 ③生徒会活動を自主的に運営できたか。 ④文化祭来場者数1300人を超え、学校行事が活性化したか。 ⑤部活動の加入率が増えたか。	「チーム所商」全職員が一丸となって、遅刻数9年連続減少、今年度は出席率の増加も達成し、生徒の基本的生活習慣は確立している。 ①遅刻数17%減少、出席率20%増加など目標値を達成した。外部の苦情も激減し、交通マナーも向上している。 ②生徒の規範意識が8.3%向上した。(90.0%から98.3%)基本的なルールはよく身に付いている。 ③文化祭来場者数が1193人で例年並み、生徒会を中心に魅力ある文化祭を企画する必要がある。 ④部活動加入率は5%上昇したが、さらに部活動全体を活性化させる必要がある。	【課題】 10年連続遅刻数減少や整容指導、交通指導を全職員が組織的に実施し、社会人として必要なマナーや規範意識を身に付ける。また生徒の活躍の場を広げ、自主自律的な生徒を育成する。 【改善策】 ①朝礼や学年集会等を利用し、道徳観の育成や整容指導など、生徒ひとり一人にきめ細かな指導を行う。 ②生徒会が主体的に取り組む学校行事を企画し、特に文化祭来場者数を増加させる。 ③「チーム所商プロジェクト」を実施し部活動全体を活性化させる。	【意見・要望】 ①基本的生活習慣が確立されているが、交通マナーの向上②学校行事に主体的に取り組む生徒の育成③生徒会が中心となり文化祭や球技大会を全校生徒からボランティアを募って実施④「時を守り」「場を清める」の徹底⑤生徒会行事の活性化のため、生徒会の自主性を育てる 【評価】 ①全職員で遅刻指導等を組織的にを行い、大きな効果を生んでいる。②生徒の社会規範意識は高いが自己管理能力を育てる必要がある。③「所商プロジェクト」で部活動を活性化④自主・自律をあらゆる教育活動で育てる必要がある⑤文化祭来場者数を増やすためポスターやチラシを工夫する必要がある。
4	地域の小中学校や商店街、介護施設等と連携した教育活動を積極的に推進し、地域から高い評価を得ている。創立50周年に向けて、さらに地域に愛され、信頼される学校づくりを進め、商業教育の魅力や特色を情報発信する必要がある。	地域との連携を深める教育活動を実施する。	①新たに所沢市内の大学と連携した教育活動の実施。 ②本校の魅力・特色を積極的に発信するための充実した体験入学や学校説明会を実施する。 ③学校HPの更新回数を増やし広報活動の活性化させる。 ④来年度の50周年を見据え、PTA・後援会・同窓会、地域と連携を深め、所商ファンを増やす。	本校と連携する地域機関が増加し、生徒の地域を大切にすることを育てたか。 ②体験入学、学校説明会等の参加人数は昨年度よりも増えたか。 ③「所商ブログ」等の更新回数を50回以上行い、内容を充実させることができたか。 ④学校関係者からの評価は向上したか。	地域の小中学校や大学、商店街をはじめとする諸機関と連携した教育活動がさらに増加、開かれた学校づくりが一段と進んだ。 ①商店街のお化屋敷運営や地域行事の部活動参加等が増加、地域を大切にすることを育成した。 ②全職員対応の6回の学校説明会では例年通り900人を超える中学生・保護者の参加があった。 ③「所商ブログ」更新は250回を超え、本校の魅力が地域に発信することができた。 ④創立50周年実行委員会を立ち上げ、地域を巻き込んだ実施計画を検討中。	【課題】 創立50周年を節目に、地域あつての所商を再確認し、さらに開かれた学校づくりを推進する。 【改善策】 ①生徒会が主体となり、商店街とコラボした文化祭や地域行事参加をはじめ、あいさつ運動など新たな事業を展開し地域に貢献する。 ②HP更新、学校説明会、中高連携をより効率的・効果的な事業にして、商業教育の魅力を発信する。 ③創立50周年記念行事を教職員、PTA/後援会、同窓会、地域が一体となって実施する。	【意見・要望】 ①出前授業や地域商店街のホームページ作成やWebを活用した模擬購入等を行い商業教育の魅力を発信②地域と一体化した50周年記念行事を積極的に推進③同窓会や後援会、PTAを巻き込んだ50周年行事の実施④生徒の主体性を育てる地域貢献(行事)に参加⑤本校関係諸機関と連携を強化 【評価】 ①地域行事に生徒が参加して活性化している。②文化祭では生徒作成スライドショーの発表等、新しい意欲的な取組がみられた。③50周年行事を成功させ、生徒のためになる行事にしてもらいたい。④商業教育の実績が素晴らしいので、さらに広報活動に努めてもらいたい。

